

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

謹賀新年



謹賀新年

オリブ園 施設長 後藤 進

新しい年がめぐってきました。子どもたちは元気に育っているでしょうか。今年も元気に活動し、お互いの成長を喜びあいしたいと思います。子どもの時期は瞬く間に過ぎてゆきますので、思いっきり心を傾けましょう。

一昨年から福祉の世界では、大きな流れが始まったといえます。国連での「障害者権利条約」批准に向けていくつかの重要な法案が出されました。2011年8月5日に「改正障害者基本法」が公布・施行されました。この第4条の差別禁止法の規定を受けて、「障害者差別解消法」が2013年6月に可決成立し交付されました（施行は2016年4月）。それに伴って、やっと「障害者権利条約」が2013年12月4日批准承認されました。実に長い道のりであり、世界の中では139番目ということで、いかに国内法がこの「障害者権利条約」の水準に追いついていなかったかを表しています。

教育が最も批准のためのネックとなったと言われています。日本の教育は基本分離の教育となっています。しかし、「障害者権利条約」ではインクルーシヴがうたわれていて、分離は原則インクルーシヴではないということです。現在の日本の教育は分離が続いていますが、今後インクルーシヴの方向を目指すという事で批准に至ったと考えられます。そのためには、日常的なインクルーシヴと合理的配慮（インクルーシヴな生活、学習をするための様々な配慮）の実践を積み重ねていかなければなりません。もし、この事が真に実現されていけば、私たちの社会が大きく変わっていくと思われまふ。共に育ちあえる社会、一緒に暮らし合える社会は未来的な社会と言えます。

どんどん新しい試みに挑戦していきましょう。

講演会のお知らせ

「障害者差別解消法と子ども」一学校や保育の場で一

講師 大谷 恭子 先生

弁護士（北千住パブリック法律事務所 所長）

日時：平成26年2月1日（土）家族向け 10：00～1200

共に生きる教育をめざしてこれまで様々な講演会を企画してきました。

今回は、国の制度にかかわり、インクルーシヴな教育を目指してきた大谷恭子先生にこれまでの数々の経験を踏まえて、保育、学校、基本法、差別からの解消、権利条約等々、インクルーシヴの現在と未来について、お話ししていただきます。



ここでは「障害者権利条約」や「障害者差別解消法」というように「障害」ということばが出ることによって、抵抗感をもたれた方もおられるかもしれません。しかし、この「障害者権利条約」も「障害者差別解消法」も「障害」のあるなしにかかわらず、私たち全ての人間の問題なのです。「障害者差別解消法」は、これまでこの日本になかった大きな一歩と言えます。ぜひ、ご参加下さいますようお願い致します。

裏面もあるよ

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.jp>

第63回全国小・中学校作文コンクール 秋田県審査 中学生の部 優秀賞 (私たちの卒園生です。)

『障がい乗り越えて』

2年 渡邊 美穂

私は、耳に障害を持っている。でも、普通の人達とはあまり変わらない生活をしている。しかし、世の中には、みんなができることができないで苦しんでいる人もたくさんいる。そんな人達に、私は今、伝えたいことがある。私は生まれた時から耳が聞こえにくかった。そして高熱を出したり、耳や鼻の病気を繰り返すうちに、だんだん悪くなっていった。それがはっきりと分かったのは1歳9ヶ月の時だ。しかし、もともと明るい性格で、物事を考えず行動をする子だったので、小学2年生くらいまでは、耳のことをあまり気にしていなかった。ところが小学校も中学年になってくると、耳のことに不安を覚え始めた。例えば、友達と話するとき、何て言っているのか分からない暗があり、何度も聞き返し相手を不快な気持ちにさせてしまった時があった。そのときは、「もういいよ」と話を切られてしまったのだが、友達が何を話しているか、知りたかったので、私は少し残念な気持ちになった。また、クラスでみんなが黙っていたり、笑っていたりすると、「何?何があったんだ?」と疑問に思うことがある。その時は、クラスに溶け込もうと必死に演技をするのだが、だんだんとそれも嫌になってくる。

また、私は、小学1年の時から剣道をやっているのだが、始めのうちは大変苦労した。面を着けるときは、補聴器を外さなくてはならない。つまり、面をつけている間は、先生、キャプテンの指示を聞いて行動することができない。不安だった。

だから考えた。なんとかチームについていくためにどうしたらいいか、を。そして実行したのは徹底的に「見て」行動することだ。先生からの指示は、動作を見て直すべきところが分かる。練習のときは、みんなの動きを見てどういう練習なのかを把握して、自分も同じ動きをすればいい。そういう風に、私は「見て」行動をしてきた。これは私の生活のすべての基本になった。

もちろん、自分一人だけで行動できるわけではない。両親、友達、先生、要約筆記をしてくれる先生など周りの人の力を借りて行動してきた。私がクラスにいて、楽しいと思えるのは、頼りになる友達がいたからだ。私が聞くと、聞こえやすくするための工夫をして答えてくれる。周りの人たちが手助けをしてくれたからこそ、今の自分がある。きっと、他の障害者もそうだろう。だからこそ、私は日々感謝の気持ちを持ちたい。そして、その人たちのためにもあきらめたくない。

中学生になった今、耳が聞こえなくても、コミュニケーションをとろうとしている自分がある。人と話し、関わりをもつのは楽しいことだからだ。クラスの人達、いろいろな教科の担当の先生、剣道部の人達など、まわりの人と話すときは相手の声が聞こえにくくて聞き取れない。でも、自分から聞きに行くことで、自分のやらなければいけないこと、相手が言いたいことが分かってくる。時々、うまくいかず傷付くこともある。でも、普通の生活ができること、周りの人に支えてもらっていることに感謝の気持ちを持つことで乗り越えることができる。そしてまた、新たなことに挑戦していける。

世の中には、目が見えない、身体の一部がない、足がなくて歩けない、手がなくてもものをつかむことができないなどもしかしたら自分よりさらに厳しくて残酷な世界を生活している人もいる。それは、心にも体にも大きな負担がかかることである。普通の生活、みんなと同じ生活ができなくて苦しむ人もいると思う。でも、私は思う。周りに、助けてくれる人は必ずいる。そして、助けてもらったことに感謝の気持ちを持って、自分で前へ進んでほしい。人と関わることを避けないでほしい。みんなの中で過ごすのは困る時もあるが、楽しい。できないことを数えるよりも、できることを考える方がずっと自分を成長させてくれる。他人ともっともっと積極的に関わり明るい気持ちで嫌なこと、苦しいことを乗り越えていこう。これがすべての障害をもつ人たちに、今、私の伝えたいことだ。

これからも、私は自分の障害としっかりと向き合い、前向きな気持ちで未来へと歩んでいこうと思う。

2013年(平成25年)10月22日(火曜日)

【優秀賞】

大庭亜由美さん
川原日陽君
菊地真空さん
広嶋歩夢さん
小松さん
今浦美さん
渡辺美穂さん

山本千尋さん
さくら、ミニシカルラ
イオン・キングを鑑賞
王ラファの言葉で、食物
連鎖について学んだ。食べ
物や資源を無駄にしない
家族の友達と支え合って生
きていく。膨らんだ感謝
の気持ちをこめて、母の
母の涙を何度も受け、約
1週間書き上げた。最も
大きな人間が生み出したの
は、

受賞者

田大教育文化学部附属小学校
3年 山本千尋(石田町)◇
「銀葉の道」秋田大学
教育文化学部附属小学校4年
深井聡輔(三浦大)◇
「中校の部」◇
「さよなら、でもおれは」
湯沢市立湯沢北中学校3年
成瀬流奈(北林町)◇

立山小学校6年 菊地真実
(加藤塚)◇
「わたしの色」横手市立
「わたしの色」横手市立
文学中学校3年 広嶋歩夢(古
開町)◇
市立山王中学校2年 小松
(岩船志保)◇
市立立山
学校3年 今浦美(湯沢市)
「夏休みにあった出来事」

秋田市立立山小学校5年 成田
実礼(湯沢市)◇
「新人を
送る」湯沢市立立山小学校
4年 佐藤謙(湯沢市)◇
「中校の部」◇
「笑顔を届けるラウン」聖
雲女子短期大学付属中学校3年
高橋花音(中島町)◇
「いばあちゃんの手紙」湯沢
市立福川中学校3年 後藤奈
里(佐井町)◇
「見えない
自分」を育てるために」大仙
市立西仙中学校1年 金達
大(佐藤町)◇
秋田市立立山小学校
1年 高橋健樹(牧野町)◇

成瀬さん北林教諭(右)

成瀬さん北林教諭(左)

あすの天気 秋田 大館 能代 本荘 横手 県内市